

「旧日本帝国」の域内・対外貿易マトリックスの作成

溝口 敏行・山本 有造

【I】 問題の所在¹⁾

戦前期における旧日本植民地——台湾・朝鮮・南樺太・関東州および南洋群島——に関する経済分析は、それに使用される統計資料の吟味をも含めて、急速に発展している。この種の分析は、これら地域における経済発展のプロセスを現代的な経済発展論という視点から検討することを可能にするだけでなく、戦前期日本の経済発展をより広い視野からみなおす機会を提供する点で有意義なものといえる。

この論文の目的は、戦前期の日本および旧日本植民地をめぐる貿易統計を吟味・加工することによって、「旧日本帝国」内での域内および対外貿易の実態を数量的に明らかにしようとするにある。戦前期の日本経済が、対旧日本植民地を含む貿易に大きく依存していたことは周知の事実である。また逆に、台湾・朝鮮の経済が、対日移入によって、日本経済と結びつけられていたことについても多くの指摘がある。しかし、これらの貿易関係を総合的な視点から分析をおこなった試みは極めて少ない。ここでは、総合的分析の準備作業として、「旧日本帝国」の域内・対外貿易マトリックスを作成することにした。この結果は、他の数量経済史的な分析——例えば「旧日本帝国」のGDE推計——の精度を向上させるうえで有効な役割をはたすことになる。

【II】 戦前期貿易諸統計の性格

一般的に言えば、貿易統計は金融統計などと並んで、歴史統計の中では豊富な部類に属する。そ

の主たる理由は、通関業務における業務統計として数値が得られることに由来している。しかし、戦前期の大部分の期間においては、日本と旧植民地間における移出入に通関手続きを必要としなかったために、すべてのデータが自動的に得られるわけではない。そこで、現在入手可能なデータを網羅的に配列し、かつその性格を吟味しなければならないことになる。

対象となるデータ・ソースは、日本については大蔵省、旧植民地については総督府等が作成した以下の統計表である。

- 大蔵省 『日本外国貿易年表』(J)
- 台湾総督府 『台湾貿易年報』(T)²⁾
- 朝鮮総督府 『朝鮮貿易年表』(K)
- 樺太庁 『樺太庁統治一斑』(S)
- 同 『樺太庁統計書』(S)³⁾
- 南洋庁 『南洋庁統計年鑑』(M)
- 関東局 『関東州貿易統計』(L)

ここで、()内の英文字は、データの出所を示すために以下で利用される略号である。

戦前の『日本外国貿易年表』は、他の戦前諸統計の例にもれず一般的な解説ないし注記を欠いているために、今日その利用に種々の不便を生じるのである。ただ幸いにして、貿易統計については、『日本貿易精覧』などのすぐれた編纂書、柴田銀次郎『外国貿易統計論』叢文閣、1938年に代表されるすぐれた解説があり、さらには戦後刊行された昭和17年以降の『年表』にかなり詳しい注記が付されることによって、この欠を補っているのである。そこで、『年表』の利用上の注意を必

1) この研究は、昭和53-55年度科学研究補助金(一般研究A)『「旧日本帝国」の数量経済史的研究』(代表梅村又次教授)によっておこなわれたものである。

2) 実際の作業では、これら原データをまとめた『台湾貿易四十年対照表』などが利用されている。

3) 一部データは、樺太庁『樺太庁施政三十年史』1936年によった。

要なかぎりにおいて列挙する。

- (1) 統計の期間は歴年による。
- (2) 「日本」の領域は、本州・四国・九州・北海道・南樺太・千島列島・琉球諸島およびそれらの付属諸島を含み、朝鮮・台湾および南洋(委任統治領)を除く地域を指し、その「外国」貿易を計上する。
- (3) 関東州は日本の属地であるが、貿易統計上は「外国」とみなされる。
- (4) 輸出価格は f. o. b. 価格、輸入価格は c. i. f. 価格である。
- (5) 国別分類における国名(地名)は、輸出については最終仕向地、輸入については産出地または製造地を原則とする。

『日本貿易年表』の作成過程で除外されている「外地」すなわち朝鮮・台湾・南洋群島では、総督府等が内地とほぼ同じ原則で貿易統計を作成している。これら、外地の貿易統計は、対「外国」輸出入統計と、内地および「外地」に対する移出入統計よりなっている。前者については、「日本」の貿易統計と同一であるので特にコメントを必要としない。他方、移出入統計については、次の2点が注記されなければならない。

- (1) 「外地」に属する3つの各地域の移出入とは「日本」(内地・樺太)および他の2外地域との貿易をいう。
- (2) 移出は f. o. b. 価格、移入は c. i. f. 価格で表示されている。

貿易マトリックスを作成する場合に生じる1つの困難は、これら3外地の移出入が、地域別に示されていないことである。それを補う情報として「移出入品仕向地及仕出地別表」が朝鮮および台湾の貿易統計に示されている。しかしながら、この種の表が得られる期間がかぎられていること、仕向地等の表示が主要港に限られ「その他」に区分された数値の細分が必要なのが問題となる。南洋群島については、移出入を地域別に細分するための補助表は見出せない。ただ、大蔵省管財局の『日本人の海外活動に関する歴史的調査』によれば、南洋群島の移出入はほとんど「内地」との間でのみ行なわれたとの記述があるので、対朝鮮、

対台湾の移出入は0と仮定しても大きな問題は生じないであろう。

関東州が戦前の貿易統計上一貫して「外国」としてあつかわれてきたことはすでに述べた。これは、主に関税法上の理由によるものであるが、統計技術的にいっても、これを外国としたほうが便利と思われるやっかいな問題がいくつか存在するのである。ところで、関東州庁も、朝鮮・台湾の場合に類似して『関東州貿易月表』、『関東州貿易統計(年表)』を発表しているが、その内容はかなり特異なものの様に思われる。まず統計表はこれを分けて「海路貿易」と「陸路貿易」とし、前者は「関東州各港に於ける船舶に依る輸出入額」、後者は「関東州内各地と関東州以外の地との陸路(汽車便其の他)輸出入額」をさすとされている。ただし、陸路輸入統計は1938年1月分から始まり、それ以前についての陸路貿易は「汽車便輸出」のみが得られるにすぎない。したがって、関東州貿易の全体を統一的に把握するには、陸路貿易についての「推計」が必要となる。これが問題の第1である。

問題の第2は、例えば『日本外国貿易年表』による対関東州輸入額と、『関東州貿易統計』による対日本輸出額を比較すると、概して後者がケタちがいに大きく、単なる誤差とは見られないくいちがいが生じていることである。この事情は、台湾、朝鮮についてもほぼ同様である。さきに、日本の貿易統計国別が、最終仕向地、仕出地主義をとっていることを述べたが、関東州の統計が仮りに「関東州を通過する輸出入額」を計上しているとすれば、この2貿易統計間の差は説明がつく。しかし、最終的な結論を得るには、よりの確な情報の発見を待たなければならない。問題の第3は、「関東州」の範囲に「満鉄付属地」を含むかどうかを吟味することであるが、陸路貿易汽車便輸出の相手地に満鉄付属地が含まれていることから、付属地は関東州には原則として含まれていないと解してさしつかえない。

最後に南樺太の貿易の取り扱い、明治期には幾度かの変遷を見ているが、当面問題となる期間については「本土」の一部としてあつかわれてい

た。ただ、樺太庁もまた貿易統計を作成している
ので、対外国輸出入は「日本」のものから分離出
来るし、対「本土」、対台湾、対朝鮮貿易につい
てもある程度のデータが得られるので、これらの
加工を通じて「本土」の貿易より分離することが
可能となる。

〔III〕 基本系列データ・ベースの作成

以上の統計上の性質を念頭に置きながら、貿易
マトリックスを作成する場合、2段階に作業を分
割することが考えられる。第1段階では、貿易マ
トリックスの作成のための基本系列を整備するこ
とである。この目的のために3種の系列群を準備
することにした。すなわち、

(BA) 各種統計表より得られる統計数字をそ
のままフェイルしたもの。

(BB) 系列(BA)について、データが得られな
い部分(除関東州陸路貿易)を可能な限り推定
したもの。

(BC) 系列(BB)に加えて、関東州陸路貿易の
数字を推計したもの。

の3者である。ただ(BC)については、なお検討
の余地が多く残されているという理由から、今日
の作業では(BA)、(BB)の系列の吟味を中心にし
すすめることとした⁴⁾。各系列は、3種の英文字、
例えば

JE-N

で示されている。最初のJは貿易主体とデータ
の出所および対象地域を示し、Eは輸移出入の区
分、Nは貿易相手を示している。このコード表は
第1表に示されており、上記の例は「日本の(『日
本外国貿易年表』よりとられた)輸出で、旧満州
国向けの額」を示している。相手地で中国および
「満州」が区分してあるのは、将来のより拡大し
た作業にそなえたものであって、本論とは直接関
係はない。また「その他日本」は、公表データに
は一括してとらえられている中小港に対する移出
入であって、日本および旧植民地に散在している

4) (BA)、(BB)系列および貿易マトリックスを作
成するプログラムは、磁気テープの形で希望者に配布
することが可能である。

第1表 系列名の記号

記号	定 義	記号	定 義
第1文字(貿易主体)		第3文字(貿易相手)	
J	日本本土	J	日本本土
K	朝鮮	K	朝鮮
T	台湾	T	台湾
L	関東州	L	関東州
M	南洋群島	M	南洋群島
S	樺太	S	樺太
第2文字(貿易の種類)		O	その他日本
E	輸出	N	「満州国」
I	輸入	R	満鉄付属地
X	移出(注1参照)	C	中華民国
M	移入(注1参照)	A	総計

〔注〕 1. 関東州についてのX、Mは陸路輸出入を示
す。
2. 陸路貿易については中華民国と満州国を区
別していない。

と考えてよい。

第2表は、(BA)系列が得られる期間、換言すれ
ば、公表データに数字が示されている期間の一覧
表が示されている。

同表より明らかのように、公表されたデータよ
り得られるデータは、貿易マトリックスの年次系
列を得るためには充分ではない。そこで、可能な
限り推計をおこないマトリックスの得られる期間
の延長を試みる必要がある。このために、実施さ
れた推計は以下の通りである。

- (1) 南洋群島の対日本本土以外の移出入はす
べての時点で0と仮定した。
- (2) 朝鮮の対関東州輸出入は、1930年値の値
を1911年まで補外したが、この作業にあた
っては関東局データの対朝鮮貿易の数字に比
例するという仮定をおこなった。
- (3) 1923~27年の朝鮮の移出入は日本と対台
湾・「その他日本」合計の2分割の形で示さ
れている。そこで、この合計を1928年の比
率で対台湾、対「その他日本」に分割した。
- (4) 1911~22年の朝鮮の移出入は、合計値し
か示されていないので、その他日本の値を0
と仮定したうえで、全合計を対日本と対台湾
に分割した。
- (5) 台湾の対朝鮮移出入は、1911-19年間に
ついて得られないが、1920年の値が0であるこ

第2表 基本系列の存在期間

系列名	期 間	系列名	期 間	系列名	期 間	系列名	期 間	系列名	期 間
JE-A	1892-1940	LI-T	1928-1938	KI-C	1911-1940	TI-L	1908-1942	SE-N	1931-1935
JE-N	1932-1940	LI-K	1906-1938	KX-A	1911-1940	TX-A	1897-1942	SI-A	1910-1938
JE-L	1907-1940	LI-N	1932-1938	KX-J	1923-1939	TX-J	1897-1916; 1916-1942	SI-C	1922-1935
JE-C	1892-1940	LI-C	1907-1938	KX-T	1928-1941	TX-K	1920-1942	SI-L	1924-1935
JI-A	1892-1940	LX-A	1908-1938	KX-O	1923-1939	TX-O	1917-1942	SI-N	1931-1935
JI-N	1932-1940	LX-R	1928-1938	KM-A	1911-1941	TM-A	1897-1942	SX-A	1924-1941
JI-L	1907-1940	LX-C	1928-1938	KM-J	1923-1939	TM-J	1897-1906; 1916-1942	SX-J	1929-1940
JI-C	1892-1940	LX-O	1932-1938	KM-T	1928-1941	TM-K	1920-1942	SX-T	1929-1940
LE-A	1907-1938	LM-A	1940	KM-O	1923-1939	TM-O	1917-1942	SX-K	1929-1940
LE-J	1907-1938	KE-A	1911-1941	TE-A	1897-1942	ME-A	1922-1938	SX-O	1929-1940
LE-T	1928-1938	KE-N	1932-1940	TE-C	1897-1942	MI-A	1922-1938	SM-A	1924-1940
LE-K	1907-1938	KE-L	1930-1941	TE-N	1932-1942	MX-A	1922-1938	SM-J	1929-1940
LE-N	1932-1938	KE-C	1911-1941	TE-L	1907-1942	MM-A	1922-1939	SM-T	1929-1940
LE-C	1907-1938	KI-A	1911-1941	TI-A	1897-1942	SE-A	1910-1938	SM-K	1929-1940
LI-A	1906-1938	KI-L	1930-1941	TI-C	1897-1942	SE-C	1910-1938	SM-O	1929-1940
LI-J	1906-1938	KI-N	1932-1940	TI-N	1932-1942	SE-L	1924-1935		

第3表 貿易マトリックスの作成作業

輸 入 も と (輸出)	輸 入							
	日 本	台 湾	朝 鮮	樺 太	関 東 州	南 洋	そ の 他	外 国
日本本土	—	TMJ	KMJ	SMJ	JEL	NMJ	0	(A)
台 湾	TXJ	—	TXK	SMT	TEL	(UK)	(B)	(C)
朝 鮮	KXJ	TMK	—	SMK	KEL	(UK)	(D)	(E)
南 樺 太	SXJ	SXT	SXK	—	SEL	(UK)	SXO	(F)
関 東 州	JIL	TIL	KIL	SIL	—	(UK)	0	(UK)
南 洋 群 島	MXJ	(UK)	(UK)	(UK)	(UK)	—	0	MEA
その他日本	0	(G)	(H)	SMO	0	0	—	0
外 国	(I)	(J)	(K)	(L)	(UK)	MIA	0	—

[注] 1. () を付さない記号は系列名。

2. (A)=JEA-JEL-SEA, (B)=TMO-SMT, (C)=JIO-JIL-SIA, (D)=KXO+KXT-TMK, (E)=KEA-KEL, (F)=SEA-SEL, (G)=TMO-SMT, (H)=KMO+KMT-TXK, (I)=JIA-JIL-SIA, (J)=TEA-TEL, (K)=KIA-KIL, (L)=SIA-SIL

3. (UK)は不詳。

とから、この9年間についても0と仮定した。

- (6) 南樺太の対関東州輸出は、1924-26年平均が0に近いことから、1910-23年についても0と仮定した。また、対関東州輸入は1924年値の比率を利用して合計値から推計した。同様の作業は、1936-39年の数字についてもおこなわれている。

- (7) 南樺太の移出入統計は、1929年以降しか得られていない。しかし、移出の品目が、木材、石炭、魚介類でほとんどしめられていることから、これらの生産統計を利用すれば補外が可能である。移入については、生産資材、生活関連物資別に推計をおこなったが、これ

は preliminary な段階にとどまっている。この詳細な手続きは、確定数字を得た段階で発表することにしたが、ここで採用されている数字はそれほど異常なものとはいえないように思われるので、貿易マトリックスの推計に利用することにした。

[IV] 貿易マトリックスの作成

以上準備されたデータを利用して貿易マトリックスを作成してみよう。この作業としては、

- (1) 基本系列またはそれに演算をほどこした数値をマトリックス上に配列すること。
- (2) (1)に加えて「その他日本」の数字と、他

第4表 1935年の貿易マトリックスの例
(A) (B-1)系列に作業(1)をほどこしたものの

IMPORT FROM	EXPORT TO								TOTAL
	JP	TW	KO	SS	LP	MI	UJT	FC	
JAPAN PROPER	—	192325	441047	34579	300269	14620	0	2198771	3181611
TAIWAN	273385	—	9745	4	4113	JP	31066	32431	350744
KOREA	370099	7198	—	57	8010	JP	108540	56892	550796
SOUTH SAKHALIN	86982	50	131	—	1	JP	5722	32	92918
LIAOTUNG PEN.	25517	1772	4933	173	—	F	0	UK	32395
MICRONESIAN ISL.	23742	JP	JP	JP	F	—	0	2632	26374
UJT	0	18568	107891	3416	0	0	—	0	129875
FOREIGN COUNTRIES	2337586	43207	95657	662	UK	601	0	—	2477713
TOTAL	3117311	263120	659404	38891	312393	15221	145328	2290758	6842426

(B) (B-2)系列に作業(2)および(3)をほどこしたものの

IMPORT FROM	EXPORT TO								TOTAL
	JP	TW	KO	SS	LP	MI	UJT	FC	
JAPAN PROPER	—	210055	544252	37972	330296	14620	0	2418648	3555843
TAIWAN	333246	—	14657	4	5013	0	0	32019	384939
KOREA	522880	10097	—	80	10287	0	0	62581	605925
SOUTH SAKHALIN	101960	64	189	—	1	0	0	34	102248
LIAOTUNG PEN.	25517	1935	6087	189	—	0	0	UK	33728
MICRONESIAN ISL.	26116	0	0	0	0	—	0	2895	29011
UJT	0	0	0	0	0	0	—	0	0
FOREIGN COUNTRIES	2337586	43207	95657	662	UK	601	0	—	2477713
TOTAL	3347305	265358	660842	38907	345597	15221	0	2516177	7189407

[注] 1. UJT: UNIDENTIFIED JAPAN EMPIRE TERRITORIES.

2. UK: UNKNOWN.

3. F: INCLUDED IN "FOREIGN COUNTRIES."

4. UJ: INCLUDED IN "UNIDENTIFIED JAPAN TERRITORIES."

5. JP: INCLUDED IN "JAPAN PROPER."

の地域に比例配分すること。

(3) (2)に加えて各系列の評価している価格と c. i. f. (または f. o. b.) に統一すること。

の3段階が考えられ、[Ⅲ]の2系列と組み合わせると6種のマトリックスが出来ることになる。まず、(1)の作業は第3表に示されている。ここでおこなわれている演算は、主として、関東州が外国としてあつかわれていたのにもなう修正である。また、多くの項目は単一の数字しか得られないので、データ選択をめぐる問題は少ない。ただ、台湾と朝鮮間の貿易については2種のデータが存在するので問題が残るが、ここではより正確と推測される台湾の数字を主として使用している⁵⁾。こ

5) チェックのため、朝鮮側の数字を利用したマトリックスも一応作成したが、台湾ベースのものといちじるしくことなるものではなかった。

の結果朝鮮の合計との間に生じる不突合は(D)、(H)の計算で処理されている。関東州側からとられている貿易の数字は、[Ⅱ]で述べた理由から採用されていない。(2)の作業は、(B)等の数字と横または縦の既知の移出入の数字に比例配分することによっておこなわれる。

(3)の作業は、多くの貿易マトリックスが採用している例に従って c. i. f. 価格に統一することにした。ただ、c. i. f./f. o. b. の比率を戦前について推定する十分な資料は存在しないが、ここではこの比率を 1.1 と仮定することにする⁶⁾。第4表で

6) ここで 1.1 を仮定したのは、明治初期の国際収支推計をおこなった建元正弘教授が (i+f) を f. o. b. 価格の 1 割と仮定したことに一応準拠している。なお棟居俊一『我国の貿易統計に就いて』によれば、昭和2年前後の (i+f) は約 6 分であったという。山澤逸平・

付

輸移入元	日 本							台			
輸移入先	台 湾	朝 鮮	南樺太	関東州	南洋群島	外 国	合 計	日 本	朝 鮮	南樺太	関東州
1897	3,724	F	F	F	F	179,448	183,172	2,315	F	F	F
98	4,276	F	F	F	F	179,076	183,352	4,557	F	F	F
99	8,012	F	F	F	F	232,644	240,656	4,015	F	F	F
1900	8,439	F	F	F	F	217,870	226,309	4,842	F	F	F
1	8,782	F	F	F	F	277,585	286,367	8,080	F	F	F
2	9,235	F	F	F	F	284,133	293,368	8,147	F	F	F
3	11,195	F	F	F	F	318,452	329,647	10,701	F	F	F
4	10,156	F	F	F	F	351,187	361,343	11,474	F	F	F
5	13,484	F	F	F	F	353,687	367,171	15,028	F	F	F
6	15,634	F	F	F	F	466,130	481,764	20,086	F	F	F
7	19,750	F	F	22,441	F	453,212	495,403	19,398	F	F	0
8	20,927	F	F	18,962	F	397,107	436,996	26,865	F	F	0
9	90,527	F	981	17,816	F	436,580	545,904	39,941	F	0	0
1910	112,041	F	1,128	21,062	F	483,182	617,413	52,730	0	0	165
11	93,521	34,055	1,440	25,369	F	466,714	621,099	56,658	0	0	283
12	43,321	40,750	1,728	30,299	F	549,369	665,467	52,509	0	0	14
13	42,830	40,420	1,957	32,819	F	662,784	780,810	44,479	0	0	2
14	39,879	39,038	1,979	24,497	F	625,438	730,831	50,311	0	0	3
15	40,587	41,531	2,087	24,421	F	754,512	863,138	66,212	0	0	23
16	49,525	52,453	2,627	40,764	F	1,199,331	1,344,700	88,682	0	0	182
17	67,741	72,698	3,343	72,296	F	1,690,952	1,907,030	116,035	0	0	1,644
18	70,550	117,263	4,808	128,010	F	2,030,246	2,350,877	116,160	0	0	1,127
19	90,490	184,871	5,585	165,139	F	2,143,535	2,589,620	156,072	0	0	793
1920	111,996	142,958	5,109	125,053	F	2,017,505	2,402,621	198,762	133	0	37
21	93,396	156,460	5,964	85,325	F	1,291,827	1,632,972	141,784	0	0	283
22	82,117	160,238	6,950	79,043	1,726	1,721,669	2,051,743	140,026	1	0	685
23	70,962	167,054	33,698	74,658	2,138	1,517,597	1,866,107	186,279	118	0	788
24	86,573	208,162	37,467	79,861	2,399	1,907,816	2,322,278	229,161	3,485	0	957
25	126,593	231,089	42,324	111,811	3,483	2,424,298	2,939,598	233,521	3,442	0	1,323
26	120,560	244,298	51,099	109,566	4,091	2,139,630	2,669,244	219,379	3,497	0	1,409
27	120,709	261,329	41,453	100,397	3,621	2,091,123	2,618,632	216,037	7,570	0	1,003
28	131,822	293,461	46,085	121,209	4,585	2,047,723	2,644,885	234,443	1,883	0	878
29	139,763	306,452	46,624	136,923	6,494	2,225,101	2,861,357	255,988	8,238	0	1,237
1930	121,080	270,814	35,315	95,495	5,461	1,519,154	2,047,319	235,036	6,778	3	676
31	113,758	212,764	28,161	72,095	5,780	1,188,883	1,621,441	217,704	4,761	0	367
32	131,220	247,622	29,009	132,646	6,255	1,418,333	1,965,085	235,717	11,036	0	2,354
33	145,592	332,805	31,351	243,174	8,550	1,803,857	2,565,329	248,324	6,435	1	1,976
34	171,163	429,833	36,960	325,454	12,635	2,063,638	3,039,683	299,334	9,428	0	3,499
35	210,055	544,252	37,972	330,296	14,620	2,418,648	3,555,843	333,246	14,657	4	5,013
36	233,433	632,563	53,652	381,881	16,450	2,580,266	3,898,245	382,274	14,979	0	4,990
37	264,191	720,002	58,959	435,509	21,997	3,057,192	4,557,850	438,283	15,327	0	6,080
38	310,464	891,737	88,189	589,948	29,213	2,368,539	4,278,090	446,332	18,334	1	17,334

は、6種のマトリックスのうち、1935年についての2種のマトリックスの例が示されている。同表(B)は、南樺太の移出入の数字の一部が暫定的であるという点などの若干の留保を除けば、当面の最終的なマトリックスといえる。同表には52コ

の数字が含まれており、このようなマトリックスの時系列を示すことは容易である。ただ、紙数の制約上、各要素を時系列の形で表示すると付表が得られる。各系列とマトリックスの関係は、1935年値を第4表(B)と対比することによって理解出来るよう。

〔V〕 残された問題

この論文の目的は、各種の研究のため、基礎的

山本有造『貿易と国際収支』東洋経済新報社、1979年、43頁、注5)、参照。ただし植民地貿易に関するiおよびfの詳細な検討はなお今後の主要な研究課題に残されている。

表

湾		朝						南 樺 太					
外 国	合 計	日 本	台 湾	南樺太	関東州	外 国	合 計	日 本	台 湾	朝 鮮	関東州	外 国	
12,752	15,067	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
12,820	17,377	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
11,093	15,108	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
10,532	15,374	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
8,234	16,314	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
13,724	21,871	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
10,987	21,688	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
12,287	23,761	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
10,630	25,658	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
9,763	29,849	F	F	F	F	F	0	F	F	F	F	F	F
9,741	29,139	F	F	F	F	F	0	0	0	F	0	0	0
9,298	36,163	F	F	F	F	F	0	0	0	F	0	0	0
11,688	51,629	F	F	F	F	F	0	7,261	0	F	0	26	26
11,821	64,716	0	F	F	F	0	0	7,355	0	0	0	26	26
12,892	69,833	14,669	F	0	3,708	1,992	20,369	7,774	0	0	0	92	92
14,945	67,468	16,900	0	0	3,682	2,132	22,714	7,863	0	0	0	11	11
12,939	57,420	27,840	0	0	2,924	3,300	34,064	7,949	0	0	0	101	101
12,978	63,292	31,441	0	0	2,790	4,026	38,257	8,827	0	0	0	275	275
15,406	81,641	44,986	0	0	2,619	7,374	54,979	7,444	0	0	0	202	202
31,469	120,333	47,255	0	0	3,693	12,282	63,230	11,238	0	0	0	118	118
38,580	156,259	71,190	0	0	5,239	16,500	92,929	19,879	0	0	0	56	56
32,266	149,553	150,914	0	0	6,772	13,127	170,813	26,412	0	0	0	52	52
34,828	191,693	219,826	0	0	4,746	19,094	243,666	27,547	0	0	0	84	84
35,135	234,067	186,310	0	0	5,522	24,335	216,167	37,072	0	0	0	674	674
23,258	165,325	217,018	109	0	4,757	17,744	239,628	42,977	0	0	0	968	968
29,879	170,591	219,897	4	0	2,304	16,707	238,912	40,742	0	0	0	482	482
28,368	215,553	253,800	9	0	2,118	20,746	276,673	55,576	0	0	0	268	268
41,628	275,231	336,185	24	0	4,123	21,296	361,628	71,065	0	0	2	56	56
46,659	284,945	348,686	299	0	1,840	24,788	375,613	77,952	0	0	2	34	34
47,926	272,211	370,300	703	0	3,780	24,196	398,979	75,824	0	0	0	3	3
43,599	268,209	361,685	486	0	5,930	26,296	394,397	74,847	0	0	0	28	28
33,021	270,225	365,422	635	0	4,497	31,691	402,245	79,700	0	0	128	89	89
31,960	297,423	338,687	764	0	5,690	34,673	379,814	61,818	0	155	495	1,042	1,042
22,137	264,630	261,156	2,695	4	3,889	25,215	292,959	51,400	0	90	290	1,913	1,913
19,109	241,941	272,065	1,209	43	3,070	11,433	287,820	78,260	0	148	0	699	699
15,874	264,981	306,464	2,682	132	5,617	27,359	342,254	71,399	94	352	4	4	4
15,878	272,614	340,946	5,402	93	6,423	52,577	405,441	80,389	49	440	20	98	98
23,332	335,593	440,406	7,130	192	6,379	57,826	511,933	106,060	5	300	2	21	21
32,019	384,939	522,880	10,097	80	10,287	62,581	605,925	101,960	64	189	1	34	34
24,645	426,888	555,267	12,555	138	12,902	71,899	652,761	130,915	104	452	17	108	108
24,522	484,212	607,354	17,130	196	27,112	101,729	753,521	133,147	0	125	37	222	222
20,791	502,792	754,739	22,378	48	25,050	165,361	967,576	164,476	20	8	19	136	136

なデータを提供することにあるから、分析はまったくおこなわれていない。このような限定を付したとしても、なお本稿の作業として残されている分野は少なくない。第1に、われわれの貿易マトリックスでは関東州の外国貿易が未知となっている。これは、関東州の陸路貿易についての推計がおこなわれていないためであり、将来補足がおこなわれる必要がある。第2に、われわれの貿易マトリックスは総額についてのみ作成されているが、

将来品目レベルまでおこなうことが望ましい⁷⁾。第3に、各地域間の相互作用をみるには、資金移動を含めた総合的なマトリックスの作成が必要となる⁸⁾。これらのテーマは、将来の研究にゆだね

7) 松本俊郎「植民地」1920年代史研究会編『1920年代の日本資本主義』東大出版会、1983年では、1920年代について主要品目別の貿易マトリックスを主要品目について作成している。

8) この種の試みは、朝鮮、台湾と日本の間につい

付

輸移入元	南樺太	関 東 州					南 洋 群 島			外	
輸移入先	合 計	日 本	台 湾	朝 鮮	南樺太	合 計	日 本	外 国	合 計	日 本	台 湾
1897	0	F	F	F	F	0	F	F	0	190,035	12,659
98	0	F	F	F	F	0	F	F	0	246,978	16,875
99	0	F	F	F	F	0	F	F	0	191,714	14,273
1900	0	F	F	F	F	0	F	F	0	257,301	13,571
1	0	F	F	F	F	0	F	F	0	228,560	12,810
2	0	F	F	F	F	0	F	F	0	231,140	10,101
3	0	F	F	F	F	0	F	F	0	271,678	11,009
4	0	F	F	F	F	0	F	F	0	316,551	12,590
5	0	F	F	F	F	0	F	F	0	435,920	10,964
6	0	F	F	F	F	0	F	F	0	361,387	12,737
7	0	8,810	1	F	F	8,811	F	F	0	435,285	11,220
8	0	12,817	279	F	F	13,096	F	F	0	386,233	16,796
9	7,287	18,164	207	F	12	18,383	F	F	0	336,001	12,384
1910	7,381	9,740	305	F	12	10,057	F	F	0	393,118	19,548
11	7,866	20,544	380	378	0	21,302	F	F	0	451,806	19,175
12	7,874	25,707	1,258	782	23	27,770	F	F	0	564,140	18,049
13	8,050	30,878	372	1,817	0	33,067	F	F	0	668,209	17,652
14	9,102	31,277	163	698	0	32,138	F	F	0	537,430	12,851
15	7,646	27,819	297	507	11	28,634	F	F	0	446,580	12,485
16	11,356	33,953	862	864	3	35,682	F	F	0	647,784	14,568
17	19,935	53,180	875	710	1	54,766	F	F	0	902,538	20,227
18	26,464	100,517	2,219	1,420	76	104,232	F	F	0	1,386,284	31,376
19	27,631	162,394	3,808	7,359	39	173,600	F	F	0	1,851,281	60,361
1920	37,746	196,861	4,525	3,405	41	204,832	F	F	0	2,118,002	55,886
21	43,945	111,931	1,780	3,527	23	117,261	0	0	0	1,422,431	38,668
22	41,224	130,574	3,114	981	68	134,737	1,844	101	1,945	1,703,830	33,859
23	55,844	148,806	3,756	1,809	244	154,615	2,534	45	2,579	1,776,978	35,403
24	71,123	175,744	1,073	1,585	188	178,590	3,825	63	3,888	2,215,418	45,361
25	77,988	176,596	2,122	2,278	251	181,247	6,427	24	6,451	2,356,669	54,384
26	75,827	157,033	2,062	2,974	193	162,262	6,793	95	6,888	2,137,087	59,975
27	74,875	132,447	4,582	3,494	334	140,857	8,999	45	9,044	1,952,391	61,309
28	79,917	150,439	2,161	2,637	259	155,496	8,892	103	8,995	1,961,062	56,199
29	63,510	166,322	2,276	2,832	230	171,660	8,316	85	8,401	2,005,546	62,300
1930	53,693	121,405	837	2,904	96	125,242	11,691	67	11,758	1,384,003	44,310
31	79,107	90,165	956	2,461	100	93,682	14,070	11	14,081	1,089,769	29,970
32	71,853	76,720	988	3,024	81	80,813	15,233	53	15,286	1,354,020	30,128
33	80,996	20,161	1,043	4,474	132	25,810	19,971	642	20,613	1,803,604	34,521
34	106,388	27,280	1,509	5,055	262	34,106	18,107	2,160	20,267	2,162,619	36,638
35	102,248	25,517	1,935	6,087	189	33,728	26,116	2,895	29,011	2,337,586	43,207
36	131,596	33,848	7,542	8,343	118	49,851	27,452	333	27,785	2,608,554	41,975
37	133,531	45,198	7,765	8,626	111	61,700	41,650	426	42,076	3,639,253	37,141
38	164,659	60,323	8,617	13,300	156	82,396	49,789	1,827	51,616	2,498,437	30,818

られている。

いま1つの問題は、日本貿易年表が採用している仕向地、産出地原則と、各植民地の貿易統計の

て、山本によっておこなわれている。山本有造「日本統治下における台湾・朝鮮の国際収支」梅村又次ほか編『日本経済の発展』日本経済新聞社、1976年；Yuzo Yamamoto, "The Balance of Payments of Taiwan and Korea under the Japanese Rule," *Zinbun* (Memoirs of the Research Institute for Humanistic Studies, Kyoto University) No. 18, 1982.

採用している移出人の定義との間に介在する複雑な問題である。例えば、日本から朝鮮経由で旧満州へ輸出された財の場合、日本からのデータでは旧満州輸出となっているのに対して、朝鮮のデータでは移入と輸出に計上されることになる。これは一種の二重計算であって、将来何らかの補正がおこなわれなければならない。

(一橋大学経済研究所・京都大学人文科学研究所)

表

国				合 計						計	
朝 鮮	南樺太	南洋群島	合 計	日 本	台 湾	朝 鮮	南樺太	関東州	南洋群島	外 国	合 計
F	F	F	202,694	192,350	16,383	0	0	0	0	192,200	400,933
F	F	F	263,853	251,535	21,151	0	0	0	0	191,896	464,582
F	F	F	205,987	195,729	22,285	0	0	0	0	243,737	461,751
F	F	F	270,872	262,143	22,010	0	0	0	0	228,402	512,555
F	F	F	241,370	236,640	21,592	0	0	0	0	285,819	544,051
F	F	F	241,241	239,287	19,336	0	0	0	0	297,857	556,480
F	F	F	282,687	282,379	22,204	0	0	0	0	329,439	634,022
F	F	F	329,141	328,025	22,746	0	0	0	0	363,474	714,245
F	F	F	446,884	450,948	24,448	0	0	0	0	364,317	839,713
F	F	F	374,124	381,473	28,371	0	0	0	0	475,893	885,737
F	0	F	446,505	463,493	30,971	0	0	22,441	0	462,953	979,858
F	0	F	403,029	425,915	38,002	0	0	18,962	0	406,405	889,284
F	0	F	348,385	401,367	103,118	0	993	17,816	0	448,294	971,588
0	0	F	412,666	462,943	131,894	0	1,140	21,227	0	495,029	1,112,233
19,653	0	F	490,634	551,451	113,076	54,086	1,440	29,360	0	481,690	1,231,103
25,582	22	F	607,793	667,119	62,628	67,114	1,773	33,995	0	566,457	1,399,086
29,812	0	F	715,673	779,355	60,854	72,049	1,957	35,745	0	679,124	1,629,084
23,954	0	F	574,235	659,286	52,893	63,690	1,979	27,290	0	642,717	1,447,855
17,655	11	F	476,731	593,041	53,369	59,693	2,109	27,063	0	777,494	1,512,769
21,816	2	F	684,170	828,912	64,955	75,133	2,632	44,639	0	1,243,200	2,259,471
30,690	1	F	953,456	1,162,822	88,843	104,098	3,345	79,179	0	1,746,088	3,184,375
41,741	76	F	1,459,477	1,780,287	104,145	160,424	4,960	135,909	0	2,075,691	4,261,416
90,846	39	F	2,002,527	2,417,120	154,659	283,076	5,663	170,678	0	2,197,541	5,228,737
102,788	41	F	2,276,717	2,737,007	172,407	249,284	5,191	130,612	0	2,077,649	5,372,150
72,394	22	F	1,533,515	1,936,141	133,953	232,381	6,009	90,365	0	1,333,797	3,732,646
94,823	69	106	1,832,687	2,236,913	119,094	256,043	7,087	82,032	1,832	1,768,838	4,471,839
96,807	330	316	1,909,834	2,423,973	110,130	265,788	34,272	77,564	2,454	1,567,024	4,481,205
96,396	253	115	2,357,543	3,031,398	133,031	309,628	37,908	84,943	2,514	1,970,859	5,570,281
103,248	1,080	165	2,515,546	3,199,851	183,398	340,057	43,655	114,976	3,648	2,495,803	6,381,388
121,451	794	211	2,319,518	2,966,416	183,300	372,220	52,086	114,755	4,302	2,211,850	5,904,929
111,061	395	193	2,125,349	2,746,406	187,086	383,454	42,182	107,330	3,814	2,161,091	5,631,363
116,017	480	198	2,133,956	2,799,958	190,817	413,998	46,824	126,712	4,783	2,112,627	5,695,719
105,507	510	629	2,174,492	2,836,677	205,103	423,184	47,364	144,345	7,123	2,292,861	5,956,657
86,520	257	257	1,515,347	2,064,691	168,922	367,106	35,675	100,350	5,718	1,568,486	4,310,948
50,716	109	178	1,170,742	1,762,033	145,893	270,850	28,413	75,532	5,958	1,220,135	3,508,814
59,207	189	333	1,443,877	2,059,553	165,112	321,241	29,411	140,621	6,588	1,461,623	4,184,149
60,678	133	439	1,899,375	2,513,395	186,607	404,832	31,710	251,593	8,989	1,873,052	5,270,178
75,398	160	335	2,275,150	3,053,806	216,445	520,014	37,574	335,334	12,970	2,146,977	6,323,120
95,657	662	601	2,477,713	3,347,305	265,358	660,842	38,907	345,597	15,221	2,516,177	7,189,407
107,856	184	2,631	2,761,200	3,738,310	295,609	764,193	54,092	399,790	19,081	2,677,251	7,948,326
121,210	184	1,268	3,799,056	4,904,885	326,227	865,290	59,450	468,738	23,265	3,184,091	9,831,946
124,425	249	1,446	2,655,375	3,974,096	372,297	1,047,804	88,643	632,351	30,659	2,556,654	8,702,504